

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12528

研究課題名(和文) 地方在住女性のキャリア意識形成に関する国際比較研究

研究課題名(英文) International Comparative Study on the Career Consciousness Formation of Women in Rural Areas

研究代表者

曽我 亘由 (Soga, Nobuyuki)

愛媛大学・社会共創学部・教授

研究者番号：50346657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本における女性のキャリア支援に関する学術研究は、都市在住の女性を想定したものが多く、地方都市や地方での就労・社会環境が都市部と異なるという点については見逃されがちであった。本研究は、日本の地方における女性の就労や労働、キャリア形成が有する特徴、地方在住女性を取り巻く働く環境整備のための施策等について、定量的側面および定性的側面から捉え、日本の地方における女性労働のあり方やその支援策についての示唆を与える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

定量調査では、金融系女性のキャリア意識、地方在住大学生のキャリア意識、コロナ禍における職業選択に関する認識、地方在住社会人および大学生のキャリア観、出産後の就業継続に関する意識等を調査し、とりわけ選択型実験を含むキャリア意識に関する調査では、属性間の優先順位を定量的に捉え、地方と都市部の女性の選好の差異を明らかにした。さらに、定量調査のフォローアップ調査として、適宜インタビュー調査を実施し、地方と都市部の女性の選好について、より詳細な差異を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：Academic research on career support for women in Japan has mostly focused on women living in urban areas, and has tended to overlook the fact that the working and social environment in regional cities and rural areas differs from that in urban areas. This study takes a quantitative and qualitative view of the characteristics of women's employment, labor, and career development in Japan's rural areas, as well as measures to improve the working environment for women living in rural areas, and provides suggestions on the nature of women's labor and support measures in rural areas in Japan.

研究分野：ミクロ経済学

キーワード：女性のキャリア意識 女性の就職感 就業環境 結婚後の就業継続 地元志向

1. 研究開始当初の背景

(1) 地方在住女性という研究視座の不足

従来、日本における女性のキャリア支援に関する学術研究は、都市在住の女性を想定したものが多く、地方都市や地方での就労・社会環境が都市部と異なるという点については見逃されがちであった。いわゆる「M字カーブ」を描く以前に、地方においては相対的に雇用の受け皿となる組織が少なく、育児休業の取得や出産後の職場復帰、さらには管理職への昇格などに関しては、都市部に比べ女性自身やその関係者も消極的な姿勢や意識がみられることもある。その一方、経済的な理由から働かざるをえない場合や女性が重要な労働力とみなされる農山漁村等では、家業を支える「担い手」としての役割と家族の中での女性の性別役割の両方を果たすケースもある。

このような日本の地方での女性の就労状況や活躍推進については、市町村あるいは都道府県を中心に実態・意識調査が行われてきている。しかしながら、これらの調査はその行政機関の男女共同参画計画策定のための資料としての位置付けが強く、都市部との格差や地域差の有無についても定量的調査結果の数値のみが強調されがちであった。加えて、地方に生きる女性が実際に抱く就労への意識やキャリア形成の実態や、それらに影響を与えうる要因(親の学歴, 教育歴, 所得水準, 専門性の有無など), さらに女性が暮らす地域にみられる地域的・経済的特性などについては定量的にも定性的にも詳細な検討は十分にはなされていなかった。

このような動向をふまえ、日本の地方における女性の就労や労働, キャリア形成が有する特徴, ならびに地方在住女性を取り巻く働く環境整備のための施策等について検証する必要があると考えられた。たとえ都市部において一定の有効性を発揮する女性のキャリア支援政策が提示されたとしても、それが地方において同様に機能するとは限らず、「都市在住者版」の複製や縮小再生産ではむしろ地方在住の女性達にとっては負担となることすら危惧される。それゆえ、女性のキャリア形成や就労が「地方」という視座からも検討され、地方独特の課題や翻って地方独自の「強み」、また女性のキャリア志向性などに対して現実的かつ学術的な検証に拠った議論が重要であるとともに、労働力不足の解消や雇用機会の増加が求められる現代社会においては不可避な課題と捉えられた。

(2) 海外における地方在住女性の就労環境, キャリア意識

上記で述べた日本の現状に対し、海外では男女平等や機会均等が重視され、一見理想的な環境が実現されているかのように見える国も存在する。しかし、その実態を詳細にみれば、どれほど理想的なのかについては必ずしも明確ではない場合も多い。例えば、男女平等について先進的であるとみなされることの多いスウェーデンにおいても日本と同様に、育児や介護を理由に、働き続ける女性の3分の1はパートタイムでの就労となっている。特に、スウェーデンの地方ではこのような傾向が強いことも考えられる。このように他の先進諸国においても、都市部と人口や労働機会が限られた地方とでのフルタイムで働く女性とパートタイムとして働く女性の比率には違いがみられることも予想され、このことは日本の地方在住女性の就労やキャリア形成とどのように異なるのか、あるいは類似点が見られるのであろうか。

しかしながら、これまで日本人研究者によって、このような視点からの海外の地方在住女性のキャリア形成や就業環境に関する考察は十分になされてこなかった。北欧を中心とした女性労働が活発な国々の事例や制度の利点が強調され、日本へのその応用が期待される一方で、これらの国々では社会保障制度自の根本的な仕組みが異なること、多くの女性がパートタイムで雇用

されていること、個人単位での税制や年金制度により働かざるをえない状況があることにはあまり触れられていない。また、そうした国々の中での都市部と地方部との地域間格差や地域独自の施策などについても言及されることはほぼなかったのである。

2. 研究の目的

本研究では、上述の研究背景および問題意識に基づき、日本国内における女性の就業、キャリア意識や労働状況に関する都市部・地方での比較研究を行い、日本とは異なる税制度や社会保障制度を有する海外での動向を踏まえながら、日本の地方在住女性のキャリア形成やその支援における地域的課題や地方政策について考察することを目的とした。人口減少が進む地方と都市部との格差が広がる日本社会の中で、地方に暮らす女性のキャリア意識および彼女たちを取り巻く労働・社会環境について、都市部との相違やその特徴を定量的かつ定性的に捉え、日本の地方における女性労働のあり方やその支援策について検討を試みるものである。

3. 研究の方法

本研究の研究手法として、主に以下の3点から研究課題に取り組んだ。

(1)文献研究、先行研究のレビュー

人的資源管理論、キャリアデザイン論、社会学、労働経済学などの関連分野における先行研究を調査し、地方在住女性のキャリア意識や就労観に関する動向や研究上の論点、重要な概念などについて整理を行った。スウェーデンや海外での女性の就業状況、キャリア意識についても資料収集を行い、また、研究分担者間で地方と都市部での女性のキャリア意識、大学生を想定した若年世代の就業意識、就業観についてどのような点が検証されるべきなのかを議論し、その問題意識を共有した。これらの文献研究から得られた知見を理論的基盤としながら、検討を重ねた上で、下記(2)および(3)の調査のカテゴリーや項目を考案し、仮説構築を行っている。

加えて、近年の動向として、AI(Artificial Intelligence)の活用やシェアリングエコノミーの種類の一つとされるスキルシェアリングが広がりを見せていたことをふまえ、日本の女性の就業環境にAIが与える影響や、日本とスウェーデンにおいてシェアリングエコノミーがどのように認識されているのかについても検討した。

(2)定量調査(アンケート調査)

希望する就業環境やコロナ禍での就業意識、自身やパートナーの出産後の就業継続に対する意識、男女共同参画に対する認識や教育経験等について、社会人や大学生(地方、都市部)を対象に、選択型コンジョイント調査(選択実験調査)を含むアンケート調査を実施した。その結果に対して、性別、地域といった属性ごとの分析やコンジョイント分析等を行い、地方在住女性の回答傾向やその背景や重要な影響を与える要因について考察した。また、Z世代とも称される若年世代の就業意識に関しても大学生を対象とした定量調査を実施した。なお、同様の質問項目を設定したアンケート調査を、海外でも実施するために英文での質問票開発を行っている。

(3)定性調査(半構造化インタビュー調査)

社会人女性および大学生に対する半構造化インタビューを実施し、女性の就労環境の整備状況、出産後の就業意欲、キャリア意識に影響を与えた要因や男女共同参画に対する認識等について詳細に調査した。具体的なインタビューの対象者は、都市部の金融系組織に勤務する社会人女

性や都市部と地方の大学生であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前はすべて対面でインタビュー調査を行い、2020年度以降は一部オンラインで調査を実施した。

4. 研究成果

以下の点から、本研究の主な学術的成果を報告する。

(1) 日本国内における都市部・地方での金融系女性のキャリア意識

愛媛県と都市部で金融系組織に勤務する女性を対象に実施したキャリア意識に関するアンケート調査（回答の収集は2018年

Random-Nonrandom parameters in utility functions				
Variable	Coefficient	Standard Error	t-value	P-value
ASC3***	-1.230	0.337	-3.650	0.000
まわりの嫉妬（嫉妬なし=0）				
男性からの嫉妬***	-2.109	0.174	-12.090	0.000
女性からの嫉妬***	-3.575	0.230	-15.560	0.000
残業時間***	-0.054	0.003	-16.190	0.000
仕事のやりがい（裁量権=0）				
やりたいことができる***	0.898	0.157	5.720	0.000
部下から信頼される***	1.172	0.166	7.050	0.000
いっしょに働く人（能力が高い=0）				
時間外でも仲良し**	0.344	0.154	2.230	0.025
サポートし合う***	0.713	0.158	4.500	0.000
賃金***	0.005	0.000	12.050	0.000
Derived standard deviations of parameter distributions				
ASC3***	3.498	0.276	12.660	0.000
男性からの嫉妬***	0.969	0.164	5.920	0.000
女性からの嫉妬	0.660	0.407	1.620	0.105
残業時間***	0.035	0.003	11.020	0.000
賃金***	0.004	0.000	10.270	0.000
No. of Obs.	2611			
Log likelihood	-1732.68			

赤字は固定パラメータ

度、愛媛県194名、東京エリア130名、有効回答計324名）結果に対して、コンジョイント分析を適用し、地方と都市部での選好の差異があることを明らかにした。具体的には、昇進の際に重視する属性を5つ（嫉妬、残業時間、仕事のやりがい、一緒に働く人、給与）を設定し、これらの属性間の選好について検討した結果、競争的環境に置かれている都市部の女性と地方の女性では、嫉妬や給与といった属性に差異があることが示された（図1）。

図1：金融系女性のキャリア意識・コンジョイント分析の結果

加えて、上記アンケート調査のフォローアップとして、職場やキャリア形成での嫉妬の影響について、東京在住の金融系組織において管理職の立場にある女性2名に対する半構造化インタビュー調査を実施した。この調査では、女性が指導的立場に就いた場合に起こると予想される周囲からの嫉妬について、対象者自身のキャリアの変遷や、その時の思いや状況をストーリーテリングによって定性的に捉えた。本インタビュー調査では、今後、管理職を目指す女性の就業意識や就業中の嫉妬について、対象者がどのように捉え、対処しているかを詳細に聞き取ることができた。

(2) 地方在住大学生のキャリア意識、コロナ禍における職業選択に関する認識

地方在住の若年世代である大学生のキャリア意識やコロナ禍における職業選択へ認識について、性別による差異を検討するためにアンケート調査を実施し、地方（愛媛県）大学生212名からの回答が得られた。この調査では、大学生が就職先を選択する際に重視する項目について、勤務地、企業規模、選考の過程、給料という4つの属性を設定し、これらの属性間の優先順位をコンジョイント分析によって明らかにし、これらの属性における性別の差異を示した。

この調査では、地方大学生は就職先を選択する際、勤務地を最も重視し、とりわけ自宅から通える企業に対して強い選好を有するという結果が得られた。さらに、男性と比較して女性が自宅から通うことができる勤務地をより重視することが明らかとなり、地方大学生、特に地方在住女子大学生の地元志向の強さを裏付ける結果となった。また、男性よりも女性の方がオンライン選考を重視しており、これらの要因として、女性のリスクに対する態度が関連している可能性を示唆した。

(3) 地方在住社会人および大学生のキャリア観、出産後の就業継続に関する意識

結婚・出産に伴う就業環境の変化や自身やパートナーの出産後の就業継続、キャリア意識を検討するために、地方（愛媛県）の社会人および大学生を対象としたアンケート調査を行い、働く上での価値観、職場環境、出産後の就業継続、出産後の職場復帰を妨げる要因、自身が育児休業を取得する際の問題点、男女共同参画についての教育経験、就業継続等において重視する点等について、コンジョイント分析を含めて検討した。この調査では、275件（社会人144件、大学生131件）の有効回答が得られ、働く上での価値観、職場環境、出産後の就業継続等については性別による意識の差がみられ、出産後の職場復帰を妨げる要因、自身が育児休業を取得する際の問題点等においては、学生と社会人間に顕著な差異はないことも明らかとなった。

さらに、コンジョイント分析（選択実験）の結果においても、性別また大学生と社会人の間に顕著な差は見られないものの、既婚者と未婚者、また子供の有無によって残業時間、転勤、給与等に対する意識に差があること、性別を問わず、既婚者もしくは子供がいる回答者は転勤に対して否定的であり、残業時間については子供がいる回答者は残業があっても退社時間が決まっている状況を好むことが明らかとなった。給与については、既婚者もしくは子供がいる回答者はそれ以外の回答者よりも重視しておらず、給与面よりも残業や転勤といった環境をより重視することが明らかとなった。

(4) 都市部と地方での大学生のキャリア意識、出産後の就業継続等に関する意識

地方の社会人および大学生を対象とした調査結果（上記(3)）およびその考察をふまえ、職場環境や、出産後の就業継続に対する意識、男女共同参画についての教育経験等について都市部と地方の回答を比較するために、都市部および地方でのアンケート調査を実施し、その回答結果を分析した（有効回答 都市部 502件、地方 249件 その他 4件 計 755件）。

その結果をみると、大学生である回答者自身は実社会での就業経験や育児・産休の経験はないにもかかわらず、性別や地域差が見受けられる項目があり、例えば、女性より男性の方が、また地方より都市部の方が昇進を重視しており、一方で女性は男性に比べると人間関係が良い環境でバランスよく安定した状態で働くことを望んでいるという結果が得られている。このように男女共同参画や男女平等について教育されたと思われる世代であっても、実際のキャリア形成においてジェンダー別の役割意識や女性が家庭での役割を主に負うことが意識される傾向にあることが観察された。同様に、2022年度には社会人に対しても同一の質問票を用いたアンケート調査を実施しており、愛媛県 200件 都市部 500件の回答を得ており、その分析結果を今後公表予定である。

また、上記定量調査のフォローアップ調査として、7名の大学生（都市部3名、地方4名）を対象として半構造化インタビュー調査を実施した。その回答内容に基づけば、回答傾向の背景となる要因はある程度共通してみられており、例えば昇進についての思いでは就労前の大学生においても保守的な傾向が地方在住の大学生にみられるなど、就業観やキャリア形成に影響する要因や居住地での差の有無、その背景を把握する上で一定の有用性があると思われる結果が得られた。

なお、対面でのインタビュー調査を想定していた国際比較調査については、本研究課題の事業期間のほとんどが新型コロナウイルス感染症拡大による著しい影響を受けた時期であったため、実施が極めて困難であった。そのため、本研究成果の結果を踏まえたアンケート票やインタビュー調査項目を英文で作成するにとどめており、今後は、スウェーデンや欧米諸国において調査を実施することを課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 折戸洋子, 笠岡泰然, 志度兆治, 白方彩夏, 瀧川佳穂, 濱野佑有, 吉見俊哉, 脇坂鈴穂	4. 巻 6-1
2. 論文標題 持続可能な社会のためのシェアリングエコノミー：シェアリングエコノミーおよびSDGsに関するアンケート調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛媛大学社会共創学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 折戸 洋子、間嶋 崇、犬塚 悠、Fors Per	4. 巻 202111
2. 論文標題 日本化する「シェアリングエコノミー」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経営情報学会 全国研究発表大会要旨集	6. 最初と最後の頁 293-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11497/jasmin.202111.0_293	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Per Fors, Yu Inutsuka, Takashi Majima, Yohko Orito	4. 巻 -
2. 論文標題 Is the Meaning of the “Sharing Economy” Shared Among Us? Comparing the Perspectives of Japanese and Swedish Policymakers and Politicians	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Review of Socionetwork Strategies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12626-021-00070-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takashi Majima, Per Fors, Yu Inutsuka, Yohko Orito	4. 巻 -
2. 論文標題 Is the Meaning of the “Sharing Economy” Shared Among Us? Comparing the Perspectives of Japanese and Swedish Researchers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Review of Socionetwork Strategies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12626-021-00068-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 曾我亘由	4. 巻 4
2. 論文標題 選考のオンライン化が大学生の企業選択に与える影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Ehime Management Society	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾我亘由, 折戸洋子, 園田雅江	4. 巻 3
2. 論文標題 職場環境が女性の昇進意欲に与える影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Ehime Management Society	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾我亘由, 折戸洋子, 園田雅江	4. 巻 3
2. 論文標題 キャリア形成における「嫉妬」の影響:金融系組織勤務女性に対するインタビュー調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Ehime Management Society	6. 最初と最後の頁 19-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 園田雅江, 曾我亘由, 折戸洋子	4. 巻 7
2. 論文標題 就業環境、出産後の就業継続に関する大学生の意識	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛媛大学社会共創学部紀要	6. 最初と最後の頁 41-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 折戸洋子, 崔英靖, 岡本隆, 岡本直之, 曾我亘由, 橘恵昭	4. 巻 7
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症による大学生生活への影響：大学生はBefore コロナに戻ることができるのか？	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛媛大学社会共創学部紀要	6. 最初と最後の頁 11-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryoko Asai, Sachiko Yanagihara	4. 巻 -
2. 論文標題 The Hidden Side of Digital Technologies for Family Use: Privacy and Other Related Ethical Issues in Digital Distance Education and Telecommuting at Home	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the ETHICOMP 2022 Effectiveness of ICT ethics; How do we help solve ethical problems in the field of ICT?	6. 最初と最後の頁 464-474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryoko Asai	4. 巻 -
2. 論文標題 AI and Ethics for Children: How AI can contribute to children's wellbeing and mitigate ethical concerns in child development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Societal Challenges in the Smart Society	6. 最初と最後の頁 459-466
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅井亮子	4. 巻 -
2. 論文標題 ジェンダーの視点で振り返るコンピューター史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 シモーヌ = Les Simones	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 折戸洋子, 笠岡泰然, 志度兆治, 白方彩夏, 瀧川佳穂, 濱野佑有, 吉見俊哉, 脇坂鈴穂	4. 巻 39
2. 論文標題 シェアリングエコノミー、SDGsへの大学生の意識 - アンケート調査結果に基づく愛媛県と都市部の比較 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市とガバナンス	6. 最初と最後の頁 52-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kiyoshi Murata, Yohko Orito	4. 巻 -
2. 論文標題 Student experiences during the COVID-19 pandemic: the case of Japanese higher education	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International education narratives. Transdisciplinary educative innovation experiences based on bilingual teaching	6. 最初と最後の頁 142-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.36443/9788418465345	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 折戸洋子, 愛媛大学社会共創学部折戸ゼミナール8期生, 明治大学商学部村田ゼミナール24期生
2. 発表標題 新型コロナウイルスという日常: 変わったこと, 変わらないこと
3. 学会等名 明治大学社会科学研究所 シンポジウム 「新常態という社会のあり方: With, after and before corona」 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tatsuya Yamazaki, Kiyoshi Murata, Yohko Orito, Kazuyuki Shimizu
2. 発表標題 Post-truth society: the ai-driven society where no one is responsible
3. 学会等名 ETHICOMP (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 園田雅江, 曾我亘由, 折戸洋子
2. 発表標題 大学生及び社会人の出産後の就業継続についての意識差に関する調査
3. 学会等名 日本キャリアデザイン学会第18回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱野佑有, 笠岡泰然, 志度兆治, 白方彩夏, 瀧川佳穂, 吉見俊哉, 脇坂鈴穂, 折戸洋子
2. 発表標題 日本におけるシェアリングエコノミーの現状と可能性
3. 学会等名 一般社団法人経営情報学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 村田 潔, 折戸 洋子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 情報倫理入門 ICT社会におけるウェルビーイングの探求	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	浅井 亮子 (Asai Ryoko) (40461743)	明治大学・研究・知財戦略機構(駿河台)・研究推進員 (32682)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	園田 雅江 (Sonoda Masae) (50782679)	愛媛大学・社会共創学部・准教授 (16301)	
研究分担者	折戸 洋子 (Orito Yohko) (70409423)	愛媛大学・社会共創学部・准教授 (16301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関